

〔伝統的な言語文化〕の可能性

— 中学校国語科教材の検討と開発を中心に —

Possibility of “traditional linguistic culture”

— Critical examination and development of teaching materials for Japanese in junior high school —

曲 璐 璐 (Qu Lulu)・中 村 敦 雄 (Nakamura Atsuo)・野 坂 友 里 (Nosaka Yuri)・
堀 口 琢 朗 (Horiguchi Takuro)・山 口 仁 見 (Yamaguchi Masami)

国語教育講座 (Japanese training course)

キーワード：伝統的な言語文化 中学校国語科教材 古典教育 故事成語 竹取物語 枕草子 和歌

(二〇一一年一〇月三十一日受理)

一 問題の所在

平成二〇年版学習指導要領では、国語科に関していくつかの新たな変革が盛り込まれた。そのうち、「伝統的な言語文化」の新設は注目すべき施策として評価できる。

第一に、いわゆるPISAショック以来の、世界的水準でのリテラシーへの接近に対する反作用としての側面である。グローバルに対するローカルなリテラシーとして均衡作用を期待された概念であり、ひいては自己のアイデンティティ確立にも関わった争点を内包している点に注目しておきたい。

第二に、従来は「古典」という名称が一般的であったのに対して、それが「伝統的な言語文化」という概念に置き換えられた点である。この語を使用することによって、それまでの中学校以降の学習者を対象とした「古典（古文・漢文）」から、対象となる学習者の範囲が広がり、その内包も拡張された。同時代的な問題意識からすれば、各種アンケートや教師による観察等から、学習者の「古典嫌い」「古典離れ」はしばしば問題視されている。そうした実態への改善案としても意義を見いだすことができよう。

ただし現時点で、以上の変革は方向性を示す段階にとどまっている。具体的な中身については、むしろ教科書教材等も含めて、これから新たに創発していく課題群として理解すべきである。それゆえ、国語科教育学研究としても明らかにすべきことは山積しているということができよう。とりわけ、教材論や学習指導の方法論等にあつては、どういった対応がのぞましいのか、喫緊の課題として位置づけることができる。

以上の認識から、中村は、平成二十三年度前期の大学院教育学研究科における講義「国語科教育実践論」におけるテーマとして上記課題を位置づけ、四名の大学院生とともに、その検討と具体的な対応について取り組むこととした。とりわけ後者に関し

ては、実際に活用可能な教材を開発することによって、説明にとめることとした。というのも、教材にはテキストの本文だけでなく、動機づけのための工夫や視覚的補助資料、さらには「学習の手引き」が付されており、教材を開発することは、結果的に教材論と学習指導方法論の双方に関わった手だてを構想する営為となるからである。ちなみに、本講義で開発した教材は、本稿後半の資料編において提示した。

本稿は、同講義での取り組みを報告することを通して、以上の課題に対して私たちなりの解決の糸口を与えることを目的としている。

(中村敦雄)

二 「伝統的な言語文化」の新設

ここで改めて「伝統的な言語文化」について確認しておきたい。

平成二〇年版学習指導要領において新設された「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は平成二〇年一月にまとめられた中央教育審議会答申を受けて次のように説明されている。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
は、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てることや、国語の果たす役割や特質についてまとまった知識を身に付けさせ、言語感覚を豊かにし、実際の言語活動において有機的に働

くような能力を育てることに重点を置いて構成している。言語文化とは、(中略)古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などを幅広く指している。今回の改訂では、伝統的な言語文化に小学校の低学年から触れ、中学校においても引き続き古典に親しむ態度の育成を重視している。(1)

その中身を構成するもの一つとして「伝統的な言語文化に関する事項」がある。

今回の改訂においては、従前「C読むこと」の配慮事項に示していた古典の指導を、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「伝統的な言語文化に関する事項」として設定した。「伝統的な言語文化に関する事項」は、小学校から系統的に設定している。中学校においてはそれを踏まえ、一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりすることを重視して指導する。(2)

以上のように設定された「伝統的な言語文化」だが、特筆すべき点はその拡充性にあると言えるだろう。

まず一つは小学校低学年から全ての学年に「伝統的な言語文化」に関連した指導事項が配置されている点である。上記二つの引用にも強調されているように、「伝統的な言語文化」の新設により小・中そして最終的に高校への系統的な指導というものがポイントになっている。

もう一つはそれに伴う教材の多様化という点であ

る。小学校低学年では昔話や神話・伝承、中学年では易しい文語調の短歌や俳句また、ことわざや慣用語、故事成語が挙げられている。そして高学年では親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章、さらに古典について解説した文章や言語文化への興味・関心を深めるために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語なども挙げられ幅広く取り扱う必要があることがわかる。

また、「伝統的な言語文化に関する事項」は各学年ともに二つの柱から形成させている。一つは古典に親しむために必要な知識や技能を身に付けることに関するものである。具体的には文語のきまりや訓読の仕方、作品の特徴を生かしての朗読、歴史的背景などに注目して読むことなどが挙げられている。

もう一つには古典に触れることで獲得したものを様々な言語活動を通して活用していくことに関するものである。こちらは古典に表れたものの見方や考え方に触れるなどして登場人物や作者の思いなどを想像することや、古典の一節を引用するなどして古典に関する簡単な文章を書くなどが挙げられている。

これらの従来よりも幅広くそして充実した事項をあつかうことでより我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることが可能である。しかし、逆を言えばこれまで以上に古典嫌いを育成してしまう恐れも同時に考えるべきではないだろうか。

(堀口琢朗)

三 従来の古典教育の問題点

入門期における古典教育は、学習者に古典の魅力を教え古典を学ぶ意義を学ばせる上で重要なものである。しかし、従来の古典教育ではこの入門期に対する配慮が十分になされていなかったことが最大の問題点であり、古典嫌いを生み出した要因ともなっている。坂東智子は中学生が古典を嫌う理由を「①言語的な抵抗感があり、内容を理解するのが難しい。②何のために学習するのかよくわからない。③現代の生活とかけ離れていて実感がわかない。」⁽³⁾という三点に整理して述べている。ここから読み取れるのは、中学生にとって古典は、読みにくい上に内容が分かりにくく、勉強する意味が分からない存在であり、中学生に古典を学ぶ意義を教えるためには、入門期の古典教育の在り方を考慮し、この問題点を解決するような学習方法を行わなければならないということだ。

坂東はこの問題点に対して「既存の知識や教養としての古典を学ぶのではなく、学習者が主体的能動的に学ぶ過程で古典学習の意義を実感し、古典と自己との関わりを意識化する学習のあり方を明らかにする必要がある」と述べている。この学習は「学習者個人が『文語のもっている感性的な世界』と『理性的な世界』に出会い『古典と自己との関わり』を生み出す場」と「その関わりを意識化し何らかの手段で他者への認識を深める場」⁽⁴⁾の二つの場を用意することで古典に対する抵抗感を払拭し、学習意欲

を高めることができるように設定されている。

このような学習者主体の学習方法は、坂東だけが述べているのではない。『平成二〇年度版中学校学習指導要領解説国語科編』では「第1学年では文語のきまりや訓読の仕方を知って音読すること、第2学年では古典に表されたものの見方や考え方に触れること、第3学年では歴史的背景などに注意して古典を読むこと」⁽⁵⁾と各学年における伝統的な言語文化の授業の目標を段階的に発展させていくこと設定した上で『伝統的な言語文化に関する事項』は小学校から系統的に設定している。中学校においてはそれを踏まえ、一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりすることを重視して指導する。⁽⁶⁾と学習意欲を重視しつつ、最終的には古典を身近なものと感じられるようになることを設定している。

小学校段階から、「伝統的な言語文化」の学習が系統的に始まることもあり、中学校の「伝統的な言語文化」の授業では、文法事項を教え古典が読めるようになるだけでは不十分であり、古典に親しみをもち現代までの繋がりを意識させるような学習まで展開させていかなければならない。つまり、古典世界と現代との比較をすることによって古典を学習することに意味を持たせ、自己の再発見や他者理解へと発展させていくことを「伝統的な言語文化」の教育の最終的な目的に設定することで、中学生に古典の魅力に気付かせることが可能になってくる。これからの「伝統的な言語文化」の授業では、従来の古典

教育とは異なり、段階的に古典を教えることで学習意欲を高め、学習者が主体的に古典と触れ合うことで古典の学ぶ意義に気付かせる必要があるのだ。

この「伝統的な言語文化」の授業への具体的なアプローチとして、まず、主題を絞ることで学習意欲を高めるものが挙げられる。大村は「古典の中の日本人の愛された心情・情景」⁽⁷⁾と古典を学習する一貫したテーマを設定し、そのテーマに沿った作品を選び、グループ学習と個人学習を並行させることで古典を学習する意義を意識させることに成功した。この大村の実践は現代にまで大きな影響を残している。渡辺春美は「過去は関係ないか」「過去の人物は無縁か」「過去の人々の知恵は無意味か」「古典によつての発見は可能か」⁽⁸⁾という四点のテーマを設定し、幾つかの作品をテーマに沿って見つめ直していくことで、主体的に考えながら古典を読むことの楽しさを理解させようとした。一方、世羅博昭は「作中の一人の人物を取り上げて、その人物がどのような生き方をしているのか、その生き方を追求する」⁽⁹⁾というように、人物の心情に迫ることで、時代は変わっても人々が考えていることには共通点が存在するというように気付かせようとした。このように、主題や人物など作品を読んでいく観点を焦点化することによって、学習目的が明確になり、学習者に古典を学ぶ意義を考えさせながら学習していくことが可能になる。焦点化する観点は、それぞれ異なっているものの、古典世界と現代を結び付けることで古典を学習する意味を深めようとする姿勢は共

通している。

従来の古典教育の問題点から、その改善点と「伝統的な言語文化」の学習で求められるものについて考察してきた。その結果、「伝統的な言語文化」の授業では段階的に学習を進展させていくことと学習者が主体的に古典と現代との違いを考えることで学習意欲を高めることの二点が重要になってくる導き出せた。入門期の古典教育は学習者が古典の魅力を知る上で重要であり、古典好きな中学生を増やすためにも「伝統的な言語文化」の授業ではこの入門期の重要性を意識して授業を行っていくべきだろう。

(山口仁見)

四 「伝統的な言語文化」における現時点の問題点

「伝統的な言語文化」について、早くも先行研究が報告されている。私たちは教育研究雑誌を中心に、その傾向性を検討した。その結果、管見ではあるが、先行研究の三分の二を占めるほど音読・暗唱の指導が重視されていることがわかった。

音読・暗唱指導は、二〇〇〇年頃から徐々に強調されてきた。その後、二〇〇三年に発表された文化審議会国語分科会「これからの時代に求められる国語力について」で、音読・暗唱の重視、「特に日本の文化として、これまで大切にされ継承されてきた古典については、日本語の美しい表現やリズムを身に付ける上でも音読や暗唱にふさわしいものであり、

情緒力を身に付け、豊かな人間性を形成する上でも重要なものである。」⁽¹⁰⁾ というように、古典の音読・暗唱の重視が公式に提言されるようになり、現在の音読・暗唱指導の強化へとつながっていったと考えられる。

音読・暗唱指導の効果について、学習院中等科の岩崎淳は次のように述べている。「声に出すことは楽しい。爽快感がある。文章がすらすら音読できれば、学習者は学習の喜びと充実感を味わう。まして文語の文章であれば、大きな自信ともなる。」⁽¹¹⁾ その他、先行研究で挙げられていた音読・暗唱の主な効果は、まず一つに、歴史的仮名遣いを読めるようになり、古典特有の文体に慣れることができること、もう一つは、達成感を得ることで学習意欲を高めることができるという二点だった。音読・暗唱を重視する大きな理由は、古典嫌いの要因の一つであった文法指導などを徹底するよりも、声に出してリズムを楽しませることで、古典への抵抗感をなくし、学習意欲を高めることができると考えられているからようだった。

古典に音声言語活動を活用することで、成功してきた例は多くある。長年、音声言語活動の研究をしてきた高橋俊三は、群読を古典の授業で活かし、その場面に適した表現を考えて読むことで、本文理解と結びつけることに成功するなど、音声言語活動の効果を活かした古典の授業を展開させてきた。

音声言語活動を古典の授業で活かすことは、高橋の先行研究のような良い面もある。しかし、音声言

語活動は指導方法を誤ると、重大な問題を引き起こしかねない要素を含んでいる。高橋は、暗唱指導を行う際の注意点について、次のように述べている。

「闇雲に、『覚えなさい』と言って文章を読ませることは、危険が伴う。子どもたちは、まさに闇雲に暗記へ向かって突っ走る。「は」とあるから「ハ」と発し、「な」とあるから「ナ」と発し、一字一音、機械的に発音しつつ記憶していこうとする。そこには「花」という視覚的なイメージ(意味)もなければ、「はな」という音の連なり(文体)の意識もない。」⁽¹²⁾

音読・暗唱指導は、高橋が述べたように、指導方法を誤ると、「機械的な作業」になってしまう危険性ははらんでいるのだ。

さて、以上を踏まえて、昨今の音読・暗唱指導法の傾向について見ていこう。

「国語の授業の少しの時間を使って暗唱テストをする。暗唱テストの評価基準は厳しい方がいい。一瞬でも詰まったり間違ったりしても合格できないようにしておく。厳しい評価基準だからこそ、合格すると自然に拍手が出るようになるのだ。厳しい評価基準から、また次回も挑戦しようという気持ちになるのである。」⁽¹³⁾ 昨今の教育研究雑誌で見られた音読・暗唱の指導は、このような音読・暗唱テストを行うことが多く、一語でも間違えたら職員室で再テストさせるなど、厳しく採点する傾向が強かった。

このような音読・暗唱テストは、高橋が危惧していた「機械的な作業」になってはいないだろうか。

一語でも間違えたら失格などといった評価基準は、ただ闇雲に声を出し、意味を考えずに唱えるような〈機械的な作業〉を斡旋してしまっているように見える。意味の分からない活動は苦痛である。このような指導方法は、新たな古典嫌いの原因を作ってしまったてはいないだろうか。

そもそも古典とはどのようなものであったか。土佐秀里は次のように述べている。

「国語科で扱う『古典』とは、物語にせよ詩歌にせよ、もともとがいわゆる文学作品であり、その当時の人々が『面白い』と（あるいは味わい深いとか、興味深いと）感じるものであったはずである。つまり『古典』とは過去のさまざまな『面白い』もののアーカイブスなのであり、『古典を読む』ということは、とりもなおさずその『面白さ』のアクチュアリを回復し再生することではなくてはならない……以下略。」¹⁴

土佐が述べているように、古典とは、本来は面白いものだったはずだ。面白いと感じられてきたから、時を越えて、現代まで読み継がれてきたのだ。

古典を教える際には、かつて古人が感じてきたその作品の面白さを、現代の私たちも同じように感じ、味わえるような指導をしていかなければならない。それが、今の指導方法ではどうであろうか。作品自体の面白さから逸れ、「古典に親し」めない方向に向かってしまっていないだろうか。

先行研究では、望ましい方向性も見られるが、改善すべき点も多く見られた。古典がなぜ今の世まで

伝わって行くことができたか、その作品の魅力を最大限に活かし、伝えていくにはどのようにしたらよいかを、今一度考える必要があるだろう。

（野坂友里）

五 既存教材の検討と開発の視点

（一） 故事成語

現行版教科書（平成一〇年版学習指導要領準拠―以下同）における故事成語の教材は、中学校一年生の巻に次の表のように掲載されている。

G社	教材名 故事成語（漢文） テキスト 傍注テキスト 挿絵 戦国時代諸国図、兵馬備、矛、盾 出典 なし
K社	教材名 古典のとりら（川柳・説話・故事成語） テキスト 分離型（左右） 挿絵 なし 出典 なし
M社	教材名 今に生きる言葉 テキスト 分離型（上下） 挿絵 四コマ漫画 出典 「韓非子 下」（新釈漢文大系 12）
S社	教材名 矛盾 故事成語 テキスト 分離型（上下） 挿絵 戦国時代要図、四コマ漫画 出典 なし
T社	教材名 古典に親しもう 矛盾 テキスト 分離型（上下） 挿絵 矛、盾 出典 「新釈漢文大系」

※なお、テキストにおける分離型とは、原文と現代語訳がそれぞれ、左右、または上下に分かれて掲

載されていることを指す。

① 項目ごとの特徴

選択内容

各教科書が取り上げている漢文として、G社は二つの故事成語「五十歩百歩」と「矛盾」を扱っている以外、その他の四社は「矛盾」だけであることがわかる。

導入部分

導入において、T社は故事成語に関する紹介を学習課題の後の「学習のポイント」というコラムで学ばせる。そして、教材本文においては、直接に「矛盾」の原文に入るとい形をとる。一方、ほかの四社では導入あるいは結末の部分で故事成語と現代との関わりを紹介している。

中学校一年生の教材として、しかも、初めて中国の古典を生徒に学ばせるという点で、教材本文に入る前の導入が非常に大切なのではないかと考えられる。

挿絵

K社を除いて、各教科書でそれぞれ、四コマ漫画や矛、盾といった挿絵を入れている。

矛と盾という現代社会にはほとんど存在しない兵器に関する挿絵の活用が非常に効果的だと言えるのではないか。

そして、四コマ漫画を入れることにより、生徒へ漢文の分かりやすい理解が期待される。また、四コマ漫画において、当時の人々の様子や物語としての

流れが分かりやすく書かれてあるので、学習課題での活躍も期待される。

ただし、G社とS社の二社では、戦国時代諸国図又は要図に諸国の名前やその場所などが示されているが、(次のページの上の地図のように)それがいったい中国のどこに位置しているのかについては説明がない。

学習課題

五社の教科書を全体的に見ていくと、学習課題は概ね三つのポイントでまとめることができる。

まずは、漢文の言い回しやリズムを味わわせることを目的とする音読と朗読の練習である。次は、教材本文に対する理解にある。故事成語の由来・意味を理解する上で、言葉で説明することが要求されている。三つ目は、生活との関わりという点において、古典が現代にも生きていることに気付かせる。

また、その他の故事成語について、T社の教材では、「漁夫の利」「呉越同舟」といった故事成語の意味や由来を紹介すると同時に挿絵も入れられているため、学習者の故事成語に対する興味を一層深めることが工夫されていることがうかがえる。

②教材開発の視点

小学校指導要領における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、第三学年及び第四学年で故事成語の指導が求められている。しかし、小学校と中学校の国語教科書の移行年度や各学校の教科書選択などの違いを含めて考察した結果、本教材開

発は漢文教材「故事成語」を中学校一年に設定することにしている。主な改善点は以下の通り。

選択内容

まず、原文と脚注を一ページにし、更にこのページを二段組にする。上の段を原文、下の段を脚注にする。脚注の部分に戦国時代諸国の位置を分かりやすく示すために、(下の地図のように)現在の中国の地図も入れ、ビジュアルな効果を期待する。また、次のページを四コマ漫画と現代語訳の順に編集した。

原文、四コマ漫画、現代語訳という構成を通して、生徒の「矛盾」に対する理解を深めようと工夫したのである。

導入部分

導入部分において、故事成語の説明を行い、生徒への呼びかけも入れる。また、「矛盾」以外の故事成語に関しては、挿絵(松添智子 絵)を利用することにより、生徒の漢文に関する興味を持たせるのではないか。

挿絵

戦国時代の各国の位置は中国のどこに位置しているのかを生徒に理解させるために、現在の中国の地図を入れる改善策を講じた。そして、オリジナルの四コマ漫画(松添智子 絵)も考案した。

学習課題

音読と理解の次に「もしも……」という問いかけを利用し、自分の考えを当時の人々の考えと比較させる。



また、その他の故事成語を調べ、文字や絵などを使い、故事成語カード作りを導入する。(曲路略)

(2) 『竹取物語』

現行版の教科書に収められている『竹取物語』は、すべて中学校一年生に掲載されている。その内容は次のとおりである。

G社	教材名 姫の物語? 翁の物語―竹取物語 挿絵 絵本の冒頭場面 テキスト 傍注テキスト(冒頭部分のみ)分離型
K社	教材名 《鑑賞》物語の味わい 竹取物語 挿絵 絵本のかぐや姫昇天場面 『竹取物語絵巻』翁が姫を家に連れ帰る場面 テキスト 分離型
M社	教材名 蓬萊の玉の枝―『竹取物語』から― 挿絵 『竹取物語絵巻』幼い姫を育てる場面、皇子が蓬萊の玉の枝を持参する場面、かぐや姫の嘆きの場面、姫の昇天場面、帝に不死の薬と手紙が贈られる場面 テキスト 分離型

S社	教材名 わたしたちと古典―かぐや姫の物語 挿絵 『竹取物語絵巻』翁が姫を家に連れ帰る場面、月からの迎えが来る場面 姫の昇天場面、不死の薬を焼く場面 テキスト 分離型
T社	教材名 竹取物語 挿絵 『竹取物語絵巻』幼い姫を育てる場面、五人の貴公子の求婚場面 貴公子の冒険場面、かぐや姫の嘆きの場面、姫の昇天場面 テキスト 分離型

①項目ごとの特徴

選択内容

竹取物語を教材として扱ううえで各社とも有名な冒頭部分は共通して採用している。だが、それ以外の取り扱い部分は差異が見られる。うち四社は月からの使者が迎えに来て、かぐや姫が月へ帰っていく昇天の場面を扱っている。しかし、M社だけは「蓬莱の玉の枝」を扱っており他の教科書と比べ特徴的であった。各社ともに冒頭部分は昔話『かぐや姫』を引き合いに出すための導入、または音読・暗唱用の教材として設定しているものと考えられる。

テキストの構成としては、傍注テキストと呼ばれるものはG社の部分的なものにしか用いられておらず、他は全て分離型だった。傍注テキストでは原文の隣に訳が付いているため、原文の古語と現代語訳の意味のつながりを意識させる効果が期待できる。また、原文を読むと同時に、その文の内容を把握することができるとは利点といえるだろう。それに対し分離型においては、原文と現代語訳が分かれて

いることで、その二つを比較しながら読んでいくことが可能であり、より詳細に文の内容を捉えることができると思われる。

導入部分

先ほど冒頭部分を扱うことで『かぐや姫』について触れることを想定していると述べたが、M社においてはそれに一切触れず、導入は挿絵のみとなっており、作品を紹介するような説明文が付いていなかった。それ以外の四社は『竹取物語』を紹介する文章とともに『かぐや姫』に言及し、昔話を媒介とすることで古典に対する学習者の抵抗感を低減し、学習者に対して軟着陸させているように思われる。

しかし、本導入として『かぐや姫』が適しているかどうかは検討の余地があるだろう。これは子どもたちの中では、既に『かぐや姫』自体が古典になっってしまったのではないかと、という懸念からである。導入としてより適しているものは何なのかを考える必要があるだろう。

挿絵

教科書の内容に対応した場面の『竹取物語絵巻』が使われており、四、五場面載っているものが主であった。絵巻を用いることでその場面を思い浮かべやすくなり、さらに人々の描かれ方から住居、装束など昔の人々の暮らしや文化について様々な気づきを得られるのではないだろうか。一方、G社は挿絵が一場面しかなく、それが絵巻ではなく『かぐや姫』の絵本の冒頭部分の絵であるなど対照的だった。

学習活動

学習活動について各教科書をまとめると、主に次のようになる。

i 音読・暗唱

ii 言語事項（仮名遣い、古語の意味）

iii 現代とのつながりを考える

まずは、学習指導要領の伝統的な言語文化に関する事項の第一学年の内容にもあるように i 音読・暗唱が設定されており、声に出して楽しむことの大切さがうかがえる。次に ii 言語事項について、古語に関する学習活動なども設定されている。闇雲に声を出し覚えるのではなく、意味を考え言葉のつながりに注意を払いながら何度も音読・暗唱する事で古文のリズムに慣れ、さらにその活動の中で歴史的仮名遣いに触れることができるのではないだろうか。

次に iii 現代とのつながりを考えるという活動については全ての教科書の学習活動に通じていることから『竹取物語』（古典作品）を通して学ぶこととして考えられていることが分かる。具体的には現代とは異なる部分と現代と比べても変わらない部分の二点を考えさせるものであった。『竹取物語』に表れている現代においても通ずる心情、「かぐや姫と帝の愛」「かぐや姫と翁たちの親子の情愛」この二点を相互に考えることでより古典を自分たちの身に引きつけて捉えることができるはずである。しかし、多くの教科書はかぐや姫が去った後の帝や翁たちの嘆きを取り上げているが、かぐや姫自身の帝や翁たちへの想いが述べられている部分はわずかである。これで

は③現代とのつながりを考えるという学習活動を行う場合、両者のつながりが見えづらく、学習者に対して配慮に欠けるのではないかと感じた。

②教材開発の視点

今回、『竹取物語』の教材開発において重視したものは、『かぐや姫』の代替になる新たな方法で導入部分を作成すること、学習者が読み取る主題を「かぐや姫と翁たちの親子の情愛」にポイントを絞り、現代とのつながりをより分かりやすく気付かせること、以上の二点である。

選択内容

音読・暗唱をするためによく用いられる物語の冒頭部分については、あえて歴史的仮名遣いを現代仮名遣いになおした形で提示した。既存の教科書では歴史的仮名遣いの隣に括弧を用いて現代仮名遣いがふられているが、中学校で初めて出会う古典教材として音読・暗唱を重視し読みやすさを追求することで試験的だがこの形に至った。また、その際に読むと同時に意味も目に入るようにするために傍注テキスト形式を取り入れることにした。意味を理解しながら音読することで、単なる暗記・暗誦を避けることができるのではないだろうか。教材として取り扱う部分も学習活動を意識し、かぐや姫が月に帰る際に翁たちへ残した手紙の内容とかぐや姫が月に帰った後の翁たちの後日談を取り上げた。

導入部分

右に述べたように当初から本当に導入として『か

ぐや姫』が適しているのだろうかという疑問に対して『竹取物語』の物語の中で『かぐや姫』と同等か、それ以上に日本人にとって身近なものが登場していることに着目した。それが今回導入として扱った「富士山」である。日本人にとって「富士山」は象徴的な存在として大変身近なものと思われる。その「富士山」の名前の由来が『竹取物語』の最後の場面である不老不死の薬を焼く際に語られていることから導入を『かぐや姫』から「富士山」に変えてみることにした。

挿絵

導入部分の内容と対応させるために富士山を載せたが、富士山の写真ではなく、古来から親しまれてきたことに気付かせるため浮世絵を用いた。

学習活動

かぐや姫の手紙と翁たちの後日談を提示することにより、かぐや姫の翁たち（親）への想いや、翁たちのかぐや姫（子）に対する想いを読み取ることができのではないかと思われる。これにより現代にも通ずる親と子の関係が学習者にも読み取れる筈である。学習者に対して読み取ってもらいたい部分を絞り込むことよってより効果的に現代とのつながりを意識できるのではないだろうか。

また、発展的な学習活動では本文に載っている『竹取物語』以外の富士山の地名について由来を調べること、様々な時代において、その当時の人々が富士山を見てどのように感じていたか、どのように考えていたか等に触れることができる。昔の人々のも

の考え方や感じ方は古典作品に限らず、身近にあるものからでも触れられるという気付きを得られることを期待している。

今回の開発した教材では「富士山」の地名の由来を扱うことで、『竹取物語』を地名起源説話という方向からも捉えることができる。例えば平成二十三年度から新たに使用された小学校用教科書で扱われているヤマタノオロチの神話に登場する「須賀」の地名起源と関連付けることも可能ではないかと思われる。小学校における「伝統的な言語文化」に関する学習内容との系統的なつながりを意識した授業展開が可能であり、小学校と中学校における「伝統的な言語文化」の学習活動の連携が期待できる。（堀口琢朗）

(3) 枕草子

現行版教科書における枕草子の教材は、中学校一年生・二年生・三年生の巻に次のように掲載されている。

K社 第二 学年	教材名 古典の世界を味わおう 枕草子 章段 「春はあけぼの(第一段)」「月のいと明きに(第二一六段)」 出典 『新編日本古典文学全集18「枕草子」』 テキスト 分離型(上下)
M社 第二 学年	教材名 音読を楽しもう 枕草子 章段 「春はあけぼの(第一段)」 出典 『日本古典文学大系19「枕草子」』 テキスト 分離型(左右)
	挿絵 清少納言像(出典不明)「枕草子絵巻」(模写)「枕草子」(写本)
	挿絵 清少納言像(上村松園筆)

S社 第二学年	教材名 枕草子・徒然草 章段 「春はあけぼの(第一段)」 「うつくしきもの(第一四五段)」 出典 『新編日本古典文学全集18「枕草子」』 テキスト 傍注テキスト 挿絵 『奈良絵本「栄華物語」』
T社 第一学年	教材名 古典に親しもう 枕草子 章段 「春はあけぼの(第一段)」 出典 『新潮日本古典集成』 テキスト 分離型(上下) 挿絵 清少納言像(土佐光起筆)
G社 第三学年	教材名 発見する言葉―枕草子 章段 「春はあけぼの(第一段)」 「うつくしきもの(第一五一)」 「香炉峰の雪(第二九九段)」 出典 『日本古典文学大系19「枕草子」』 テキスト 傍注テキスト 挿絵 清少納言像(出典不明)

①項目ごとの特徴・それに対する検討

選択内容

現行版教科書において『枕草子』は各教科書会社で第一学年から第三学年までと幅広く、学年を跨いで選択されている。

選ばれている章段については「春はあけぼの」は、どの教科書会社も必ず採用している。その他にT社とK社は「月のいと明きに」を、S社は「うつくしきもの」を、G社は「うつくしきもの」と「香炉峰の雪」を選択している。T社とK社で同じ章段を扱っているのに段数が異なっているのは、出典が違うためだと考えられる。

また、同じ随筆ということで、K社とS社は『徒然草』を、M社は「古典の心に近づく」(加賀美幸子

著)という現代の随筆を単元内で扱っている。

本文は、中学校の古典教育は入門期であるため、各教科書会社も現代語訳と原文を共に掲載している。その形態は、T社・K社・M社の三社が原文と現代語訳を上下や左右など別々に提示する分離型を使用し、残りのS社とG社は、傍注テキストを使用している。

導入部分

K社のみ「随筆の味わい」と題した解説文の内、清少納言と『枕草子』について、教材本文に入る前に細かく取り上げている。他の四社は、そのような解説文はなく「春はあけぼの」から始まっている。

挿絵

清少納言の本人像などを中心に、各教科書で挿絵を掲載している。ただしM社のみ、『枕草子』ではなく同年代の『栄花物語』の挿絵を扱っている。またT社は牛車、S社は尼そぎ・火おけ、G社は御格子・炭びつなど現代では馴染みがないものについても挿絵を掲載している。

学習活動

学習活動は、五社中四社が音読や朗読を設定している。またどの教科書会社にも共通しているのは、筆者である清少納言のものの見方・感じ方を理解させようとしている点である。

文法事項を扱っているのは、K社とG社の二社のみである。ただし、内容は係り結びや古語の意味・用法に軽く触れる程度に限定されている。これは、現代語訳と原文が同時に掲載しているため、文法事

項を把握していなくても内容が理解できるためだと考えられる。

発展学習では、K社が「春はあけぼの」を、S社が「春はあけぼの」と「うつくしきもの」を参考にしながら自分の考えや季節感を書く活動を設定している。

既存の教材を検討した結果、『枕草子』は清少納言独自のものの見方や考え方が描かれた作品であり、当時の人々の感性とずれた部分にその魅力があるのにも関わらず、『枕草子』と当時の人々との感性の比較を行っていないところに課題を感じた。また「春はあけぼの」以外の章段にも触れさせることで、『枕草子』の魅力や特性がより理解できるのではないかと考えた。

②教材開発の視点

今回『枕草子』の教材開発の重点として意識したのは、清少納言の人物像を把握した上で『枕草子』を学習すること、当時の一般的なものの見方・考え方と『枕草子』に描かれているものを比較させることと『枕草子』の特異性に気付かせること、随筆という表現媒体をなぜ清少納言は選んだのか理解させること、という以上三点である。

対象学年は第二学年に設定し、伝統的な言語文化に関する事項の「(イ) 古典に表されたものの見方・考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」をねらいとした。

選択内容

使用する教材本文は、平成二〇年度版学習指導要領の改訂によって「春はあけぼの」が小学校の教材として扱われることが判明したため、中学校では「春はあけぼの」を学習していることを前提とした上で、「木の花は」と「九月の二十日あまり」を取り上げることとした。

教材本文は、原文と現代語訳の意味のつながり意識させるために、今回は傍注テキストを採用した。
導入部分

『枕草子』は平安時代の一般的な考えを描いたものではなく、清少納言独自の考えが描かれていることに特徴があり、それを理解することが作品の魅力を感じ取ることにもつながってくる。そのため、本文に入る前に『枕草子』がどのような作品で、清少納言はどのような意図でこの作品を書いたのかを理解させるために解説文を導入部分に掲載することにした。その際、学習者が理解しやすいように現代語訳はできるだけ簡単なものに書き換えた。また補助資料として、「清少納言ってどんな人」という清少納言の人物紹介を質疑応答式にしたコラムを本文の最期に置くことで、清少納言に対して興味・関心が持てるようにした。

挿絵

導入の解説部分やトピックでは、『枕草子絵巻』の挿絵や清少納言像を掲載することで、『枕草子』が書かれた時代はどのような雰囲気だったのかを感じ取れるようにした。教材本文では、梅・藤・橘・ホト

トギスの写真を載せることで本文の内容を理解しやすいようにした。

学習活動

「木の花は」では、教材本文で出てきたホトトギスと橘の取り合わせが、『古今和歌集』の夏歌の「けさ来鳴きいまだ旅なる郭公花橘に宿はからなむ」のように、多く読まれていることを知ることで、和歌には伝統的な取り合わせがあることに気づき、今後和歌を学習する際の有効な視点として活用できるようになることを期待して設定した。

「九月の二十日あまり」では、教材の冒頭の「自然と心の中に思い浮かんだことを、自分の好きなように書きつけ」と『枕草子』について清少納言が自己評価している部分との関連を意識したものである。清少納言は自分の考えを表現するために和歌という表現媒体ではなく、あえて随筆を選んだということを理解させるために、「さやうなるをりぞ、人歌よむかし」と言いながらも、清少納言が歌を詠まなかつた理由を考えさせる活動を設定した。また、他教材との関連として、『百人一首』や『古今和歌集』を利用した調べ学習をすることで、当時の人々の月に対する考え方を理解させ、現代との感覚の相違点を意識させたいと考えている。

(山口仁見)

(4) 和歌

現行版教科書における和歌の教材は、中学校三年生の巻に次の表のように掲載されている。

G社	教材名 今に向かって 歌の源流へ―万葉集・古今和歌集・新古今和歌集― テキスト 傍注テキスト 脚注(作者の説明、語釈) 挿絵 なし
K社	教材名 (鑑賞)詩歌の味わい 万葉・古今・新古今 テキスト 原文、脚注(作者の説明、語釈、歌の種類) 挿絵 小野小町(三十六歌仙)、額田王(飛鳥の春の額田王)、紀貫之、西行法師、『万葉集』写本、『古今和歌集』写本、『新古今和歌集』写本、式子内親王
M社	教材名 古典を楽しむ 君待つと―万葉・古今・新古今― テキスト 原文、脚注(語釈、歌の種類)脚注外に作者の説明あり 挿絵 額田王(飛鳥の春の額田王)、六歌仙(六歌仙)、藤原定家(小倉山部分)、『新古今和歌集』写本
S社	教材名 和歌の世界―万葉集・古今和歌集・新古今和歌集― テキスト 原文、脚注(語釈、歌の種類)脚注外に作者の説明あり 挿絵 なし
T社	教材名 古典を味わおう 万葉・古今・新古今 テキスト 原文、脚注(作者の説明、語釈、歌の種類) 挿絵 小野小町(三十六歌仙)、古今和歌集序(伝源俊頼筆)、葉の写真

①項目ごとの特徴

選択内容

どの教科書も『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』から教材を選択しており、短歌だけでなく、長歌、東歌、防人歌も選択している。S社では、大

津皇子と石川郎女の歌を前後に配置している。これは、和歌の物語性、和歌同士の関連性を考慮した上での配置なのであろう。K社・M社・S社の藤原定家と式子内親王の前後配置も作者同士の関連性を示していると考えられる。

テキストは、G社のみ傍注テキストであり、その他の教科書会社は、原文と語釈が分離されている。

和歌の修辭法についての項目は、G社が多く、枕詞、掛詞などの簡単な解説を掲載していた。また、M社では、和歌の修辭法についての説明はなく、古文としての特徴を掲載している。K社は、和歌と漢詩を同じ單元の中で学ばせている。

導入部分

M社は、『古今和歌集 仮名序』を載せることで、和歌が当時どのように捉えられていたかを伝えている。G社は、現代歌人の俵万智と和歌とのつながりを例に挙げ、和歌から自分自身の状況などを照らし合わせて考えることで、ものの考え方を深め、表現をより豊かにすることができるということを説明している。

挿絵

挿絵を載せている教科書会社では、いずれも作者の絵を載せている。G社とS社は挿絵を載せていないが、作者の挿絵や情景の写真を掲載すると、学習者が先入観を持ったまま和歌を読んでもしう可能性があるため、挿絵を載せていないのではないかと考えられる。

学習活動

どの教科書会社も音読活動を設定している。G社では、和歌を解説する活動を設定しているが、例文から察するに、和歌そのものだけで内容を想像させるのではなく、作者の背景や歴史背景を踏まえて和歌を考えさせようとしているようだ。また、G社では、発展活動として、和歌の修辭法の項目を参考にしている。M社とS社では、鑑賞文、T社では感想文を書く活動を設定している。K社では、和歌と漢詩での自然の感じ方の違いを探らす活動を設定している。

K社とS社では物語を作らせているが、和歌や作者についての説明が少ないので、学習者が、戸惑いかねない。補助教材として、作者の背景などを説明した本等を指導者が学習者に紹介する必要があるだろう。

和歌は、歌そのものだけでなく、題詞や詞書、言い伝え、作者の背景など、歴史的背景とともに語り継がれ、親しまれてきたものが多い。古人達は、歌とともに題詞や詞書を読むことで、歌への理解をより一層深め、作者の心情や歌の情景を読み取り、想像を膨らませたのではないだろうか。そのように、古人が歌に親しんできた方法を現代の学習に活かすことも、和歌に親しむためには必要なのではないかと考えている。

既存の教材を検討した結果、和歌の内容に深く踏み込んで考えるような活動が少ないと感じた。物語や鑑賞文を書かせる活動が多いにもかかわらず、作

者の背景や歌が詠まれた背景に関する詳細な説明がなく、和歌の内容を想像しにくいというところに課題があるように見えた。S社のような、和歌の物語性を踏まえた上での歌の配置は、大いに評価すべきだが、作者同士の関係性の説明や歴史的背景の説明が浅く、物語が想像しにくくなってしまっていると感じた。

②教材開発の視点

今回、和歌の教材開発をする上で重視したのは、作者の背景や歌が詠まれた経緯などを理解した上で和歌に親しませること、和歌の表現の仕方や和歌がどのように捉えられてきたかななどにも関心を持たせるようにしたことである。

対象学年は中学校三年生に設定し、伝統的な言語文化に関する事項の「(ア)歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。」をねらいとした。

選択内容

平成二三年度版小学校国語教科書では、百人一首から多く和歌を採択しているので、中学校教材でも百人一首から多く和歌を採択することにした。これは、小学校の段階で音として覚えた和歌を、中学校では歴史的背景などを踏まえて詳しく学ばせることで、和歌への理解をより一層深めようとする目的の上での採択である。

テキストでは和歌の意味を理解しやすいように傍注テキストを使用し、和歌の内容を想像しやすいよ

うに、語釈を多めに掲載した。

また、物語性のある恋歌では、題詞や作者の背景を扱い、和歌の内容の説明を加えることで、和歌の関連性を想像しやすくするよう心がけた。

導入部分

学習者も親しんでいるだろう有名な現代の漫画をもとに詠んだ短歌を例として挙げることで、歌に対する抵抗感を和らげた。また、その短歌に詠まれた心情と、和歌に詠まれた心情を比較し、現代の人たちと古人の心情は、さほど変わらないということに気づかせ、和歌に親近感を持たせるよう改善に努めた。

挿絵

恋歌では、作者同士の関係性や当時の装束などを想像しやすくするため、相関図を取り入れた。

学習活動

小学校の学習活動では、和歌を音読によって学習させることに重点が置かれているが、中学校教材では、音読だけでなく和歌の内容をより深く考え、歌への理解をより一層深めることを目的とした。

教科書本文で四季の歌、恋の歌のどちらとも意味が取れる和歌を採択し、学習活動で、自分にとってその和歌が恋の歌になるか、四季の歌になるかを考えさせた。その活動をする事によって、和歌への理解を深めさせている。また、歌合で詠まれた和歌の勝敗を決めさせるなど、和歌の表現力を評価させる活動も設定した。

従来のような、リズムや文体を理解させるための

音読活動だけでなく、和歌の内容を味わうために音声言語活動を取り上げた。

また、和歌にまつわる言い伝えや、題詞・詞書などをわかりやすく説明した本を紹介するなど学習意欲を高めるような改善を図った。

(野坂友里)

六 結論

以上の検討から「伝統的な言語文化」の学習指導に関して、次のような争点が明らかになった。第一に教材論に関して、入門期の学習者にとって抵抗感がなく親しみを持つことができ、興味を喚起することができる教材の必要性である。しかし、教材として採用に値する古典テキストは限られており、従来に教材として採択されたものが繰り返し登場しているのが現状である。このことは、中学生にふさわしい新たな古典テキストを教材として発掘する余地が少ないということ意味しているのではないだろうか。そうである以上、今回開発した教材で工夫を凝らしたように、視覚的補助資料としての挿絵や人物への興味から作品の面白さに繋がるように、古典を読む動機づけを教材化において行っていくことが望ましい。さらに挿絵を今まで以上に積極的に活用することによって、物語ならばその場面の情景や世界観、和歌ならば人物関係の相関図などを捉えることで、その世界へのアクセスが無理なく進められるような配慮が欠かせない。

現代の中学生がいかにして古典テキストに出会うのか。その方法如何によって興味喚起も古典嫌いも生み出しかねない。平成二十三年度版小学校国語教科書では音読・暗唱を重視し、古典テキストそのものを何らの配慮のないまま掲載しているものも見られるが、それは古典嫌いを生み出しかねない危険をひそませている。

第二に学習指導方法論における改善である。「伝統的な言語文化」の新設に伴って音読・暗唱を目的も考えずにただ闇雲に行っている指導が多いことが分かった。しかし先行研究で述べられているように、望ましくない結果を生み出しかねない。今回教材を開発していくにあたって、学習者の興味や関心を高める中で目的や意図を十分に理解した上で声に出して表現することが重要であることが分かった。確かに古典テキストのリズムや響きは大事な魅力の一つであり、日本語表現としての重要な到達点の一つでもある。そこで、学習者が作品自体の魅力を実感しながら行うことが重要であるのだ。

次に大事なものは、時間の隔たりを超えて現代との繋がりの中で作品と出会い、親しみを持たせることである。例えば自分のこととして考えるきっかけを与えたり、当時の人々と自分自身の考え方を比べたりする仕掛けを用意することが有効な手段としてあげられる。また、これまでの教科書教材では、作品が本来持っていた構造を解体し、題詞や詞書、言い伝え、作者の背景など、歴史的背景から和歌のみを教材として提示する、あるいは同時代の文化的な象

徴と切り離して扱う傾向が見られた。しかし学習者の興味関心から考えると本来の姿や言葉と共鳴している文化的象徴の力を呼び戻すことによって、学習者にとって新鮮な興味関心を持つことができるのではないだろうか。以上のような発想がさらに発展され、改善されていくことが、喫緊の課題に対する最も効果的な解決策だと考える。

ささやかな提案であるかもしれないが、この小論が読者諸賢に貢献することがあれば幸いである。本来は同時代の人たちに愛好された面白い作品が、教育の中では格調高い立派な文章として扱われてしまっている。時間の経過によって作品が登場した時代と現代とは幾つもの文化的・社会的間隙が生じてしまっている。しかしその間隙の埋め方を工夫することで、学習者と作品のすばらしい出会いを保証することが私たちの責務なのだ。

(曲路璐・中村敦雄・野坂友里・堀口琢朗・山口仁見)

- (1) 『平成二〇年度版中学校学習指導要領解説国語科編』二九頁
- (2) (1) に同じ
- (3) 坂東智子「自己との関わりを意識化する古典学習指導の考察―大村はまの単元学習『古典入門―古典に親しむ』(昭和25年)を中心に―」『教育実践学論集』一一号 二〇一〇年 八三〜九五頁
- (4) (3) に同じ
- (5) 『平成二〇年度版中学校学習指導要領解説国語科編』七頁
- (6) 『平成二〇年度版中学校学習指導要領解説国語科編』二二頁
- (7) 『大村はま国語教室 第三巻』筑摩書房一九八三年 三〇頁
- (8) 渡辺春美『国語科授業活性化の探究Ⅱ 古典(古文)教材を中心に』溪水社 一九九八年 八頁
- (9) 世羅博昭『源氏物語』学習指導の探究』溪水社 一九八九年 五頁
- (10) 文化審議会国語分科会「Ⅱこれからの時代に求められる国語力を身に付けるための方策について」『これからの時代に求められる国語力について』二〇〇三年二月
- (11) 岩崎淳「古典指導のための三つの提案」『教育科学国語教育』五〇巻九号 二〇〇八年八月 十八頁
- (12) 高橋俊三「表現としての暗唱と創作力を磨く暗唱」『月刊国語教育研究』四七〇号 二〇一一年六月 二十八頁
- (13) 中谷康博「暗唱で文語調の詩文や俳句や短歌に慣れ親しませる」『教育科学国語教育』五二巻一号 二〇一〇年一月 四十六頁
- (14) 土佐秀里『万葉集』はもっと面白い―「古典の読み方」を変える教材選択を―『月刊国語教育』通巻三四八 二〇〇九年五月 二十二頁

(きよく るる・なかむら あつお・のさか ゆり・ほりぐち たくろう・やまぐち まさみ)

〔資料編—今回開発した教材〕

『韓非子』
矛盾

楚人に盾と矛とをひさぐ者あり。

これをほめていわく、「おが盾の堅きこと、よくとれずものなし。」と。

また、その矛をほめていわく、「おが矛の利きこと、物においてとれずものなし。」と。

ある人いわく、「しを矛をもって、子の盾をとれざば、いかん。」と。

その人危うることあはたわざりき。

楚人
矛盾
楚人、その矛をほめていわく、「おが矛の利きこと、物においてとれずものなし。」と。
また、その盾をほめていわく、「おが盾の堅きこと、よくとれずものなし。」と。
ある人いわく、「しを矛をもって、子の盾をとれざば、いかん。」と。
その人危うることあはたわざりき。

● 出典『新編漢文大系 12』

故事成語 — 矛盾

故事とは昔から伝えられてきた物語のことです。特に中国から伝わってきた故事に基づいてきた言葉が故事成語です。故事成語には、意見や教訓を例え話によって伝えるものが少なくありません。

多くの故事成語の由来を知り、自分の考え方を広くしましょう。

背水の陣
五十歩百歩
完壁
推戴
漁夫の利
矛盾

矛盾

韓非子
中国の戦国時代に活躍した韓非（？前233）たちの考えをまとめた本。

楚人
中国の紀元前八世紀〜前二世紀の約五百年間を春秋・戦国時代というが、楚はこの時代に長江の中流域を領していた国。

学習のびき

1 「矛盾」の物語を音読し、リズムを楽しましよ。

2 「矛盾」はどんな物語なのか、場面をしながら説明しましよ。

☆「矛盾」の物語には、どんな意見や数則が含まれると

考えますか。生活から例を採りましよ。

3 もしも…

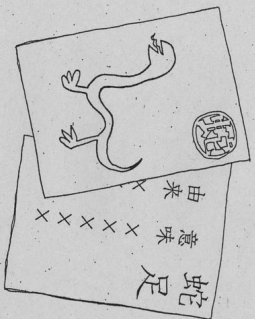
A あなたが商人だったら、矛と盾を売れるように、どのように宣伝しましよか。

あなたなりの言葉や工夫を考えて、演じてみましよ。

B あなたもその日の身物人だったら、商人の言葉について、どう思いましよか。

そして、どのように行動しましよか。

4 色々な故事成語の由来や意味を調べ、文字や絵などで故事成語カードを作らう。



矛盾 4

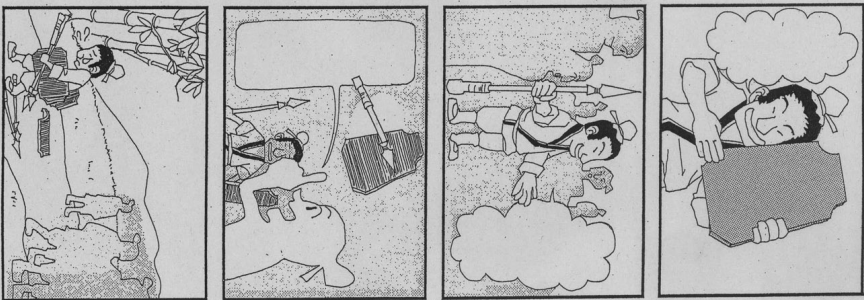
楚の国の人に、盾と矛を売らうがいた。

(その人が) 盾を売って、「わたしの盾の堅いこといっただら、(これを) 突き通せるものはない。」と言った。

また、矛を売って、「わたしの矛の鋭いこといっただら、どんなのでも突き通せないものはない。」と言った。

ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通すとどうなるのかね。」と尋ねた。

その商人は何とも答えることができなかった。



矛盾 3

古典にふれよう「竹取物語」

皆さんは「富士山」と呼ばれる山を知っていますね。日本人にとって昔から親しまれてきた有名な山です。では何故「富士山」と呼ばれているか、その名前の由来を知っているでしょうか。

様々な由来がありますが、次の文章はその内の一つです。

そのようにけたまはりて、士どもまた異して

山へほりけるよりなむ、その山を「この山」とは名づける。

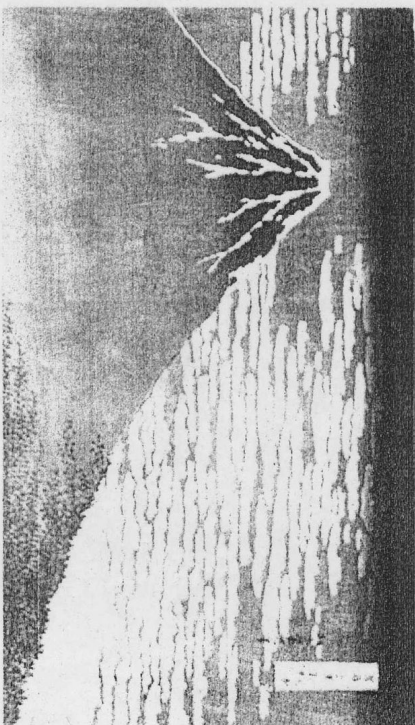
これは、『倭書』兵士たちをたさく引き連れて山に登ったところから、その山を「土に富士山（つまり）「ふじの山」と名づけたのである』

という言い伝えを全載しています。

この文章は「竹取物語」という古事記の中に書かれています。「竹取物語」とは今から約千年前の平安時代初期に作られた物語であり、現在の日本に残っている物語の中で、最も古い物語といわれています。

長く読み伝えられてきた作品が「古典」と呼ばれています。

※富嶽三十六景(俵橋師北斎)



今は昔、竹取の翁という者あり。

野山にまじりて竹を取りつ、

よろずの事に使いけり。

名をば、さぬきの造となんいける。

その竹の中に、もと光る竹なん

一すじありける。

あやしがりて、寄りて見るに

筒の中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、

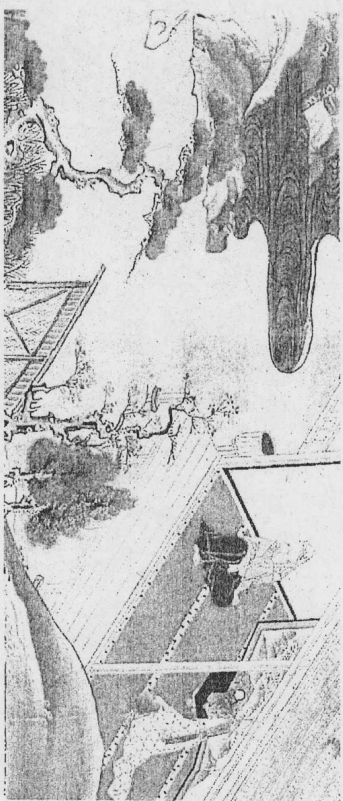
いどうつくしゆうていたり。

とよねらひら驚き置ける

・翁：昔の男性

・さぬきの造：翁の名前

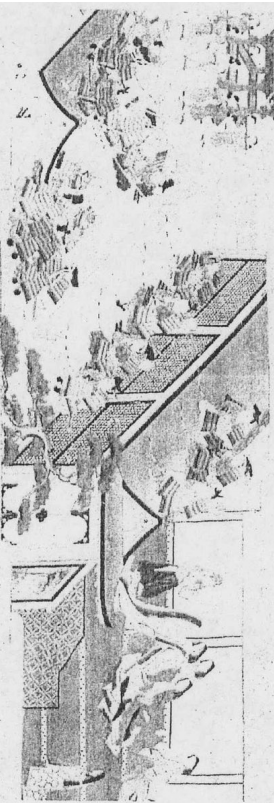
・三寸：一寸は約三センチメートル



※竹取物語絵巻一巻が女の子を家につれてきた場面

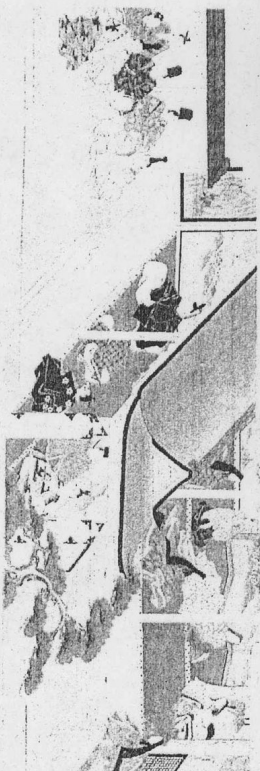
(私訳) この人間の国に生まれていればあなた方を悲しませないので、一緒に眠いで寝ておく養物を私の形見として、いつまでも置くでたい。そして月が出た夜は、目を見上げてくださ。鉤たちを量繕るような形で出て行くことは辛く、まるで空から落ちてしまいたいような気がします。

「この国に生まぬるとならば、嘆かせたてまつらぬほどまで侍らん。過ぎ別れぬることかすがす本意なくこそおぼえはれ。脱ぎ置く衣も形見と見たまへ。月の出でたらむ夜は、見おせたまへ。見捨てたてまつりてまる。空よりも落ちぬべき心地する。」



先ほどの文章は、物語の冒頭の部分です。この冒頭を読んで皆さんは、以上うな均語を思いついたでしょうか。「竹取物語」は昔話でよく知られる「かぐや姫」の元になったお話です。

竹取の翁は、竹の中から現れた小さな女の子を目自分の家に連れ帰って、我が子のように育てました。そして三か月程たつと、その女の子は輝くように美しく成長し、「なよ竹のかぐや姫」と名付けられました。そのかぐや姫の評判を聞きつけ、五人の貴公子がかぐや姫に結婚を申しこんできました。ところが、結句かぐや姫は結婚しませんでした。その後、ついに天皇からの求婚を受けますが、かぐや姫はこれにも拒み、応じようとしません。そうしているうちに、三年の月日がたつた。その頃から、かぐや姫は月を見てひどく泣いたりするようになりました。不思議に思った翁が理由を聞いてみると、かぐや姫は「私は月の都の者なのです。八月十五日には月に帰らねばなりません」と答えました。それを聞いた天皇は、翁の家を千人の兵士で守り、かぐや姫を月に帰そうとしました。しかし、月の都の人々に対しては兵士たちも全くの無力でした。ついに月に帰らなければいけなくなつた時、かぐや姫は翁たちへ手紙を残しました。次の手紙がその手紙の内容となっています。かぐや姫が翁たちへ残した手紙とはどんな手紙だったのでしょうか。



そしてかぐや姫が月に帰ってしまった後、

鏡、煙、血の涙を流して慄へど、かひなし。

あの書き置きし文を読み取聞かせけれど、「なにせむにか

命も惜しからむ。誰がためにか。何事も用むなし。」とて

薬も食はず。

やがて起きもあがらず、病みふせり。

そのまき置き上がることもなく、病気で床についている。翁とおぼあさんは血の涙を流して思い乱れるけれど、

しようもない。かぐや姫が書き置きしたあの手紙を周りの人が読んで聞かせたが、「何をするために命を惜

しむのだ。誰のために命を惜しむのだ。何事にも命を惜しむ用はないのだ」と言つて薬も飲まない。

また、かぐや姫は月へ帰る直前、天皇にあっては手紙も書いていません。そして手紙だけでなく、不老不死の薬を置き、産としていたのです。しかし、天皇も翁たちと同じように、ひどく羨ましくなりました。天皇は「不老不死の薬もかぐや姫がいなくなつた世の中は意味の無いものと考え、駿河にある天に最も近い山に大勢の兵士を登らせて、その山頂でその薬を焼かしました。

物語の中では、こうした理由から「富士山」が登場し、富士山の名前の由来につながつていくのです。しかし、不老不死の薬を焼いたことで「不死山」という山としてもちよらえられています。

「古典」には、現代へと伝わる、様々なものの由来や言い伝えだけでなく、その当時の人々の生活や心情、ものの見方や考え方が描かれています。そしてそこからよみとれる昔の人々の考え方や感じ方は、今の私たちと変わらな

いとも確かに存在するのです。おなたたちにとって古典と云われるという事は、どのようなことなのでしょうか。

学習の課題

『出典』新編日本国文学全集十巻『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』
原文部分はこちらによる。

①物語の最初部分を読み返し音読して、古典の文章になれよう。

②古典の文章は今の現代の文章と仮名遣いが異なる部分があります。かぐや姫の手紙と

かぐや姫が月に帰ってしまった後の部分と今までの仮名遣いと異なる部分を探してみよう。

また、現代とはことなつた意味で使われている言葉があるので、現代語訳と比べてながら

探してみよう。

①かぐや姫が翁たちに残した手紙と、その手紙を受け取つたその後の翁たちの様子から、

かぐや姫と翁たちの関係と今の私たちの親子関係を比べてみよう。

また、「現代の私たちと変わらない考え方やものの見方を『竹取物語』の中から探してみよう。

②本文に載っている「竹取物語」以外にも富士山の地名についての由来は様々なにあります。

本や、インターネットを手がかりにして調べてみよう。そしてお互いに見つけ合ひ、

昔の人が富士山についてどのように考えていたかを考えてみよう。

(堀口琢朗)

ひろがる言葉 ― 枕草子

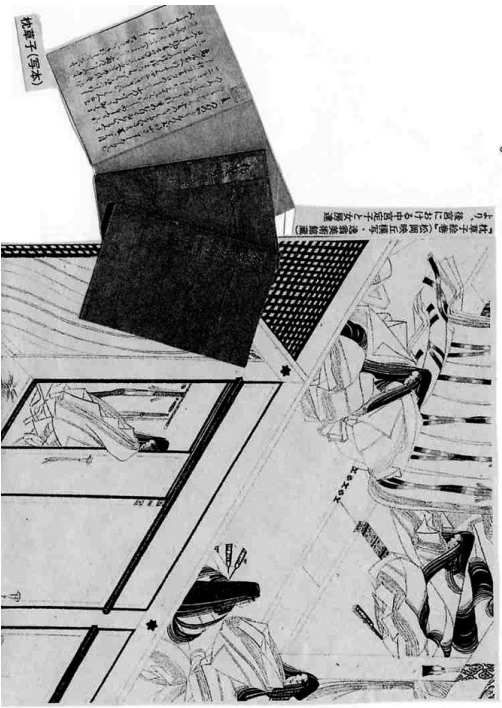
皆さんは「春はあけぼの」から始まる随筆を知っていますか。

これは、今から約千年前に清少納言によって書かれた『枕草子』の冒頭です。この作品は、随筆文学の最高傑作とも言われ、今まで多くの人々に読み親しまれてきました。

『枕草子』の末尾には、清少納言自身の作品に対する評価がこうに書かれています。

「だいたい枕草子は、世の中で評判になっていることや、皆がすばらしいと思うに違いないことだけを選り出して、和歌にしても、木や草や鳥や虫のことにしても書き出したものならば、『思っていたほどよくない。清少納言はこの程度の人だっただのか』と悪口も言われるはず。でもそのような内容を書いたのではなく、自然と心の中に思いついたこと、自分の好きなように書きつけているのだから、他の作品と並ぶような評判を聞くようなものであるはずがないと思っていたのに『筆が手が気おくれするほどすばらしい』などと、誣む人は言ってきたさるそうなので、とても奇妙な感じがするの。」

このように『枕草子』には、当時のもの見方や考え方、感じ方を描いただけでなく、清少納言の独自の視点や加わっているところに特徴があります。どのようなところに新しさがあるのか、当時の一般的な考え方や比較しながら作品の世界を味わってみましょう。



1

木の花は

木の花は 濃きも薄きも、紅梅紅梅、桜は、花びら大きに、葉の色濃

きが、枝細くて咲きたる。藤の花は、しなひ長く、色濃く咲きた

る、いとめでたし。四月のつごもり、五月のついたちころほい、橘

の葉の濃く青きに、花のいと白う咲きたるが、雨うち降りたる

つとめてなどは、世になう心あるさまにかし。花の中より黄金の

玉かと思えて、いみじうあぞやかに見えたるなど、朝露に濡れた

あざはらの風に寝におとらず。朝公の上すがとさへ思へばにや、

さらと言ふへうもあらず。せめて言ふ必要ないほどすばらしい

紅梅
植物の名。花が紅の梅。平安時代、単に「梅」という場合は白梅を指した。

植物の名。五月ごろ、葉色・白色などの花を総状につけるヤマ

つごもり
科のつる性落葉低木のこと。

ついたち
月の下旬のこと。四月のつごもり

り」とは、現在の六月初旬になる。

ちころ」とは、現代の六月末になる。

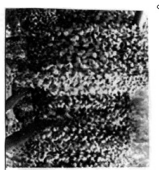
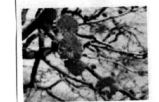
植物の名。常緑樹で、香りの高い

白い花をつける柑類のこと。

つとめて
「ほどとぎす」とともに歌に詠ま

をかし
趣がある、すばらしい、おもしろ

鳥の名。夏を知らせる鳥として観



2

学習のびき

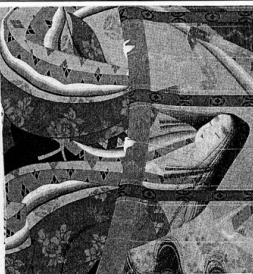
○「木の花は」について

1. 登場する花のどのようなどころが美しいと思っているのか、花ごとに整理して考えよう。
2. 『古今和歌集』に「けき来鳴きいまだ旅なる耶公花橋に宿はかなむ」（夏歌人しらず）とあるように、ホトギスと橋は、一緒に詠まれることが多い取り合わせです。ホトギスと橋の取り合わせで詠まれた歌は他にどのようなものがあるのか、調べてみよう。

○「九月の二十日あまりほど」について

1. 清少納言は「さやうなるをりぞ、人歌よむかし」と言いながら、なぜ歌を詠まなかつたのでしょうか。
2. もしも、この場面で歌を詠むとしたら、どのような歌が考えられますか。『百人一首』や『古今和歌集』などを使い、月を詠んだ歌ではどのようなものがあるのか、調べてみよう。

清少納言って、どんな人？



清少納言（『源氏物語』部分）上村松園

誕生日は？

九十六年に生まれと言われているけれどいつ生まれていつ死んだかはつきりとしたことが分かっていない。また清少納言管絃の昵称で、本名も分かっていないよ。

家族構成は？

父は歌人で有名な清原元輔よ。また曾祖父は『古今和歌集』の代表歌人である清原深養父で、代々歌人を出した家柄で有名な清原家の出身なの。

仕事は？

一条天皇の中宮であった延喜様に約七年間、お仕えしました。『枕草子』は、宫廷の生活で展開したことも書いてあるから、他の章段も読んでみてね。

九月二十日あまりのほど

九月の二十日あまりのほど、初瀬に詣で、いとほかなき家に
はつか 廿二日はつか 参りて、
はせ 初瀬に詣で、いとほかなき家に

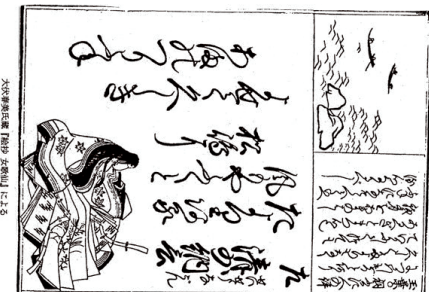
とまりたりしに、いとくるしくて、ただ寝に寝入りぬ。
だともひたすら寝て だともひたすら寝て

夜ふけて、月の窓より覗りたりしに、人の臥したりしどもが衣
お 月明かりが窓から、もれて来たが、人が寝たか、衣が落ちていた上にかけてあった。衣

の上は、白うでうつりなぞしたりこそ、いみじうあはれとおぼ
お の上は、その月明かりをうけていたりして、その風情は、たいへんかみかたに感じ

えしか。さやうなるをりぞ、人歌よむかし。
お えしか。さやうなるをりぞ、人歌よむかし。

らだのだ。そなとさきとさきと、合歌を詠むといふのだ。
お らだのだ。そなとさきとさきと、合歌を詠むといふのだ。



清少納言の書「舟」(部分) 上村松園

長月の二十日あまりほど

初瀬

奈良県桜井市にあり、二尺

六寸（約80センチメートル）

の十一面観音を本尊とする。

いとほかなき家

ほんのちよつとした粗末な家。

いとくるしくて

とても疲れて苦しくて。

窓

明かり取りの窓。

衣

ここで着物のことを指す。特に

上半身からおおって着るものを総

称している。

あはれ

物事に感動し、しみじみと心を動

かされる様。

おほえしか

自然と心に浮かび、感じられる様子。

《出典》

原文部分は全て『新編日本古典文学全集 18』

和歌の世界につながる

あなたは小野小町を知っていますか。小野小町は世間三美女の一人といわれるは美人で難われた女性でした。また彼女は美女としてだけでなく歌人としても有名でした。

思いつく事はや人の見知らぬ夢を知りせば驚めざまし

小野小町

(古今和歌集 恋歌二)

右の歌は、その小野小町が詠んだ歌ですが、初めて詠じた人には、もしかしたら意味が理解しづらいかも知れません。

では次の短歌からどうでしょうか。

自然草で夢を夢まで送つたどても下がなかくよかた

仁尾智

(万葉集 恋歌 入道)

この歌では、みなさんも知っている『万葉集』に登場するひびく道長の物語を話かすことで、恋心を表現しています。好きな人と恋の道で、どこでも一瞬で移転できてしまう『どこでもドア』をもし使ってしまったら、好きな人と一緒に居られる時間は少なくなってしまう。ベッドを閉けてしまえば、好きな人と過ごす時間を大切にしたいという気持ちが伝わってきます。

一丈小野小町は、夢の効果を活かして歌を詠んでいます。小野小町の歌は、「あの人のことを何度も恋しく思いながら寝たので、あの人が夢に現れたのだろうか。もし、それが夢だと知ってしまったら、私はずっと寝てしまいたくない」という意味です。この歌では、たとえ一瞬で覚めてしまふ夢の中でさえも、あの人と一緒にいたいと願う気持ちが伝わってきます。とららの歌も、好きなという気持ちを直接的な言葉で表現するのではなく、『どこでもドア』や『夢』を引き合いに出すことで、一途な恋心を巧みに表現しています。

とららの歌からも、「好きな人と一瞬でも長く一緒にいたい」という気持ちが伝わってきます。とともに、恋をする気持ちは昔も今も変わらないと気がつくでしょう。この他にも、きこと「あめ、この気持ちわかるなあ」と感じの歌があるはずですよ。

あなたにとって、とってほきの三十文字を一緒に見つけてみてください。

四季の歌

春の歌

梅の枝に光る花の影 春かけて飛びつら、また春は降りつ

梅の枝に光る花の影 春かけて飛びつら、また春は降りつ

夏の歌

春過ぎて夏来らし白だの衣干したり 天の具山

春過ぎて夏来らし白だの衣干したり 天の具山

秋の歌

秋から秋の草木のしをれば 秋の山をわたりて人山の風をわたりて

秋から秋の草木のしをれば 秋の山をわたりて人山の風をわたりて

冬の歌

朝はらけ有明けの月と見そまてに 吉野の里に降れ名雪

朝はらけ有明けの月と見そまてに 吉野の里に降れ名雪

照つるの月と見そまてに

夕陽の影を眺んで、それぞれの歌を知り、理由も交えながら、どんな色を感じたか、理由も交えながら、遠く話してみませんか。

鳥の谷面を待て、暖かなる里に出くると、花を宮の御守としてとらえていた



鳥の谷面

白だの衣(い)で干したる衣、衣の影を消し

持統天皇

(万葉集 卷一 百人一首 二巻)

文屋麩

(古今和歌集 秋歌下 百人一首 二十二巻)

しる。草木の影の影、山風、ひらた、一の影の影、山風、ひらた、一の影の影、山風、ひらた、一の影の影

有明月、夜が明ても空に映つて、月、闇の月、十

坂上是則 百人一首 三十二巻 (古今和歌集 冬歌)

恋の歌

但馬屋女種積皇子の歌

但馬屋女・高市皇子の歌に在す時に種積皇子を怨ひて作らす歌
但馬屋女・高市皇子と同様に海に身をまて歌た恋一首

秋の田の穂向きの寄れる片寄りに君に寄りな言無くありとも
ひた向にわたは寄らぬい(たどむ世の戀が

たのむとあるとも

歌の右に書かれていた天竺國といひ、歌が録られた経緯や時代背景を説明しているものです。この副詞
から理解できるように、この歌は、但馬屋女という女性が種積皇子という男性に宛て歌った歌です。

但馬屋女は、異母兄の高市皇子の妻でありながら、同じ異母兄である種積皇子に好意を寄せてしまっています。

但馬屋女は、この歌の他に数首、種積皇子へ怨の歌を送りましたが、種積皇子とは結ばれなかつたようです。

その理由に、政治的な立場の問題がありました。高市皇子は種積皇子より身分が高、種積皇子とは
上司と部下の関係でした。そのため、種積皇子が但馬屋女の想ひに答えるとは、とても難しいことだった

のです。

種積皇子が但馬屋女の想ひを詠むことのできたのは、但馬屋女が亡くなった後のことでした。それが、
左の歌です。

但馬屋女の葬せし後に種積皇子、冬の日雷の降に、御簾を遠かに望み、悲戀流涙して作らす
思ふ女が亡くなった後に、種積皇子が冬の日雷降つた時に、但馬屋女の墓を遠く見ても、悲し涙流して詠ん
歌一首

降る雷は去には降り古恋の持綱の間の寒からまくに
うらむはしむく(家守但馬屋女詠) 寒たふるも

(分業集巻二)

降る雷は去には降り古恋の持綱の間の寒からまくに
うらむはしむく(家守但馬屋女詠) 寒たふるも
このように、関連する歌や副詞などを見ていくことで、一つの物語を描くことができます。古人が
も、歌が詠まれた背景などを知らなくても、歌や歌人の想像を膨らましていくことも可能です。

歌一首

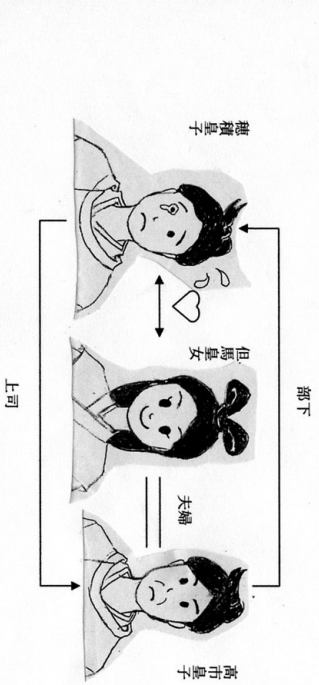
歌一首

種積皇子

但馬屋女

高市皇子

○相関図



四季の歌、恋の歌

人はびんばも知らず 今と昔は 花を昔の 香にほひける
戀のやすいひの心は もある とろかわかない

かはやる 神代も聞かず 意田川 かつれぬがに 水くるとは
かたけの雨に 水くるとは

たなほ

歌合

恋にれど 恋にてけり わが恋は ちのちや 恋のあひ 人の問ふ注で
たれほしきに

恋すて、わが名はままだき 立ちにけり 人知れずこそ 思ひそめしか
恋をていじこの風情は早より立ってしまった

二三七

歌合

恋にれど

恋にてけり

わが恋は

ちのちや

恋のあひ

人の問ふ注で

たれほしきに

二三七

恋すて、わが名はままだき

立ちにけり

人知れずこそ

思ひそめしか

恋をていじこの風情は早より立ってしまった

二三七

恋すて、わが名はままだき

立ちにけり

人知れずこそ

紀貫之
(古今和歌集 卷上)

百人一首 三十五巻

在原業平朝臣
(古今和歌集 秋歌上)

百人一首 十七巻

平兼盛
(拾遺和歌集 恋歌一)

百人一首 四十巻

壬生忠見
(拾遺和歌集 恋歌一)

百人一首 四十巻

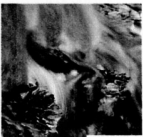
人はち…「い」は「て」は男主人をす。「う」は「る
おとてしよか」の誰。

花…「花」は「か」の誰。

か…「か」は「か」の誰。

かたけの雨…「かたけ」は「かたけ」の誰。
かたけの雨…「かたけ」は「かたけ」の誰。

川に流るる水



戀女にあわす…「恋女」は「恋女」の誰。
「白」に分けて、白目目を詠む「恋女」が誰なれ
たか左に一期の恋女を詠む。最後は「恋女」を詠んで
「白」の誰で詠まれたか。

上二首は、九六〇年に村上天皇が詠じた「恋歌」で

「恋」という題で詠まれたか。

百人一首 四十巻

恋すて、わが名はままだき

立ちにけり

人知れずこそ

思ひそめしか

恋をていじこの風情は早より立ってしまった

二三七

恋すて、わが名はままだき

立ちにけり

人知れずこそ

思ひそめしか

恋をていじこの風情は早より立ってしまった

二三七

学習ひびき

1. リンクや歌の題目に注意して音読してみよう。

2. 『四季の歌』の歌の『一首のうち』とちよらか一首を選んで、その歌が詠まれた背景や逸話を調べてみよう。その上で、おなたに於いてその歌が四季の歌になるのか、それとも『恋』の歌になるのか、おなたなりに考へて判断してみよう。

3. 『歌合』の二首を歌の意味、音の響き、表現の工夫などの面から考へて、どちらの歌が素敵か話し合ってみよう。

4. 歌の意味や一つの言葉に込められた意味、情景や作者の気持ちなどを想像しながら朗読しよう。また、全ての学習を踏まえて、何故人々は歌を詠んだのか考へてみよう。

次へうに紹介されている本を読んでも調べてみよう！
その冊が詠まれた歌や逸話を調べて、和歌がもたらしたことを



○本立てと和歌を調べ、理解を深めよう！

『百人一首大書』
岩屋人かき書



『ルチャ』
佐々木綱 主婦の生活社




『らまる子さんの強盗』
著 小島ゆかり キヤクサー版
作 せくらもも子 集英社



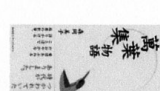
和歌を探しているは「心」
これらの本では、それぞれ
心図彙に行き、自分に
合う本を探してみよう。




『百人一首はじめて読む和歌』
望月光 中絶版




『萬葉物語』
篠原孝子 富田ゆんたろ



『恋』
てすと、杉彰 くら出版



『百人一首を題材にした歌』
来由記 集英社 B・E・LOVE KC




↑観たこととして
の百人一首を題材に
した歌。眺めは
百人一首で対戦した
くなる！

『百人一首を題材にした歌』
杉里 マガミアンクリ

↑百人一首の歌を題材にした歌！

『天上の恋』
里香智子 集英社 コスモスキ

↑集英社の和歌題材にした歌。など



歌は現代の画でも描かれて
ます。黒紙の巻画を見て
読んでみましょう。

(野坂友里)

